

反抗期…？

反抗期とは・・・精神発達の一過程。2・3歳の幼児期に意志が芽生え、自我感情が発達し、他人の指示を拒否し、ときにその反対の行動をする場合を第1次反抗期。青年期初期に自我感情が特に強く意識され、それが行動の面では反抗として現れる場合を第2次反抗期と呼び、合わせて反抗期を形成するとされる

少しのぞいてみましょう。児童期の子どもって…？

挑戦したい(でもだめかもしれない) そんな気持ちをめぐって…

何かできるようになりたい！！という思いと
「どうせ自分はたいしたことはない、うまくできない」という思いの間で揺れ動く時期

- この時期の子どもにとって大切なのは「難しいことでも頑張ったらできた(できる!)という経験や思い(有能感の獲得)
- 幼児期以上に「学びたい」「できるようになりたい」という思いが強くなります。
- 一方で、自分ができているかいないかを客観的に把握することも可能となります。

〇〇君もできるし、みんなできるのにぼくはできない・・・どうして？

〇〇ができるようになりたいな・・・でもぼくにはそんな力なんてないから・・・

ぼくはどうせできないんだ！



自分で考えたい！ 自分で頑張りたい！

わたしの家ではダメって言われてるのに、何で〇〇ちゃんの家では許されているの！おかしいよ！

何でも話してねって言うけど、こんなことは誰にも言えないもん！

毎日毎日おんなじことばかりで、うるさいなあ。言ってるお父さんはやってないじゃん！



自分で考えたい(でも考えさせてくれない) 自立と自律をめぐって・・・

幼い頃は「お父さん、お母さん、先生の言うことなら何でも正しい」と思っていたけど、今は「自分で考えたい」という思いを抱き、自立と自律に向かう時期

- 幼児期後期以降、児童期では学校での「対等な仲間とのかかわり」が中心となり、互いに主張しながらも、お互いを尊重し合う段階へ移行します。
- 自己意識の発達に伴い、「自分の意思で選択したい」「親にも知られたくないことがある。」といった個人の権利の概念も芽生えます。
- 子どもの主張(個人の権利)と「社会常識」「慣習・規則」とが対立します。価値の押しつけには特に敏感です。

どうすればいいんだろう？

この時期の子どもを理解しよう

- 子どもは大人に言われなくとも、自分ができないことや苦手なことをよく理解している。
 - できないことを指摘したり、他の子と比較して頑張るように促したりするのは余計なお世話かも・・・。
- 子どもは自主性・主体性を発揮したくてうずうずしている。
 - 子ども自身が選んだこと、好きな活動を尊重しよう。
没頭することで有能感が生まれる。ただし、人間として生活していく上で大切なことや必要なことは、しっかりと伝えて行きながら
 - 子どもと一緒に考えてみよう。考えさせてみよう。
大人が答えや解決策を示すのではなくて・・・。





「寄せ書きシート」



みんなで寄せ書き 子育てカフェ



(自分の子どもとの関係で、あなたが今、困っていることを書いてください。)

あなたの声

例)
あるある。
そんな時は、大きく深呼吸して、
エスカレートしないように
一呼吸おくようになっています。
大変だけどお互い
ガンバ!

あなたの声

あなたの声

あなたの声

あなたの声